

3 平成21年度札幌南一条病院の事業計画と運営目標

平成21年度札幌南一条病院BSCシート

ミッション	厳しい医療情勢に耐えうる、質の高い活力ある病院を目指す。		
運営方針	病院の専門性と独自性をより一層充実させる。 診療の効率化と環境整備につとめると同時に財政基盤を安定させる。 当院を中心とした地域完結型の医療の再構築を行う。		
	指 標	平成21年度目標値	中長期的目標値
財務の視点	①医業収益	21.7億円	22億円
	②キャッシュフローマージン	8%	8%
	③一般病棟ベッド稼働率	78%	82%
	④血液透析患者数	150名	150名
顧客の視点	⑤年間健診患者数	300以上	300以上
	⑥患者満足度	良い以上85%	良い以上90%
	⑦職員満足度	すべての項目5.0以上	すべての項目5.5以上

内部プロセスの視点	⑧レベル3以上のインシデント数	20以下	20以下
	⑨QC活動サークル数	8以上	8以上
	⑩平均在院日数	17.5日以下	17日以下
学習・成長の視点	⑪HOT/SAS新規導入患者数	15/30	15/30
	⑫腎生検/P TA/シャント手術数	12/25/20	15/30/30
	⑬冠動脈造影/P T C A/P M I数	75/15/12	80/20/15

	指 標	平成21年度目標値	アクションプラン
財務の視点	①医業収益	21.7億円	9階病棟有効活用 ジェネリック薬導入 診療材料の適正化 在宅施設との協調 地域連携パスの利用
	②キャッシュフローマージン	8%	
	③一般病棟ベッド稼働率	78%	
	④血液透析患者数	150名	
顧客の視点	⑤年間健診患者数	300以上	学会・研究会参加 健診業務の拡大 環境設備の充実 QC活動の啓蒙 広報活動の充実
	⑥患者満足度	良い以上85%	
	⑦職員満足度	すべての項目5.0以上	
内部プロセスの視点	⑧平均在院日数	17.5日以下	在院日数除外患者 入院透析患者引受け 7：1看護の維持
	⑨QC活動サークル数	8以上	
	⑩レベル3以上のインシデント数	20以下	
学習・成長の視点	⑪HOT/SAS患者数	15/30	病診連携の強化 医師会活動への参加 腎臓病教室（調理） 腎臓通信・研究会開催
	⑫腎生検/P TA/シャント手術数	12/25/20	
	⑬冠動脈造影/P T C A/P M I数	75/15/12	

平成21年度の事業計画と運営目標の説明

① 財務の視点

今年度は、診療報酬の改定がないので、平成20年度の経常収支1億5千万を基礎に、上乗せ1億7千万の黒字を見込む。療養・障害者病棟は、ベッド稼働率95%で、入院基本料も高く、このまま維持するよう努力する。特に、療養病床は医療区分3を中心に、障害者病棟は重度障害者比率70%以上を維持することが肝要である。一般病床・亜急性期病床は、ベッド稼働率改善の余地がある。逆に言えば、潜在能力がまだかなりあると考えられる。一般病床は、シネアンギオ装置や運動負荷装置が故障により使えなかったことで、検査入院が減ったことが要因としてある。また、亜急性期病床は、職員の認識が不十分なこともあると思われる。当院としては、地域連携パス（病病連携）を強化して、特にD P C病院からの患者獲得を協力を推し進めたい。亜急性期病床は、おそらくこれからの医療情勢の中で重要性を増してくるものと思われる。現在はある程度社会的入院も、受け入れるつもりである。これにより、ベッド稼働率を80%まで上昇させたい。血液透析患者数は、入院透析の充実により、現状維持の150名を想定している。

② 顧客の視点

ドック・健診業務の拡大を行いたい。地域連携室の充実を図り、300名を目標としたいと思います。このために、ホームページ分析を含めた広報活動の充実を考えています。今年度は、医師も充足されたので、きめ細かいサポートができと思っています。また、ボランティア活動は、患者満足度が高く、20名体制で継続を予定しています。

③ 内部プロセスの視点

医師1名・薬剤師2名の増員を行う。医師に関してはこれで法定医師数の確保ができ、かつ腎センターとし

て充実した施設となる。当然、当院主催の研究会の開催や、患者受け入れの幅も広がり、対外的な宣伝となる。薬剤師に関しては、薬学部の6年制への移行により、今後2年間は新規の薬剤師が見込めないのを踏まえて、今年度に増員する。服薬指導業務の増加を期待している。クランク・ボイラー・介護助手の派遣・請負は、当院職員とする。加えて、秋の病院機能評価を見据えて、仕事の効率化を推し進めたい。

医療機器については、薬局の分包機も不具合が生じてきている。内視鏡も購入後10年以上が経過して、ファイバースコープのトルクが低下しているが、修理不能とのことである。この3年間で、内視鏡件数は毎年1.5倍の増加率であるので、今後のドックや検診の増加を考えれば、新規の入れ替えを考慮している。医事コンピューターも来年の診療報酬の改定に対応不可と通知されているので、今年度中に取り替える必要がある。これら医療機器の入れ替えについては、5年程度の中期計画で行っていきたい。

④ 学習・成長の視点

昨年度はボイラー・暖房機の入替えを行った。今年はトイレ水周りの工事を考えているが、病院自体築40年を超えて、外壁・配管がそろそろ限界に近づいている印象である。移転新築を考慮にいれて、長期的展望も考えている。

システム開発部を有効利用して、病院IT化と仕事の効率化に向けて、ソフト面の充実を積極的に推し進めていく。すでに検査予約システムも完成し稼動し始めている。

血液検査参照システムも5月中には完成予定である。システム開発における委託・メンテナンス費用を考えれば、支出の圧縮という点でも、システム開発部の貢献は大であり、今後のさらなる成長が期待される。